

日本で、世界で さまざまな印刷ニーズに応えるリソグラフ

孔版印刷の原理に理想科学独自の技術を融合させて生まれた印刷機「リソグラフ」。孔版印刷とは、印刷のもととなる版に孔(あな)をあけ、そこにインクを通過させて画像を用紙に転写させるシンプルな印刷方式です。リソグラフは、版の作成から印刷ドラムへの脱着、インクの供給などの工程を自動化し、誰でも簡単に、きれいに、スピーディーに、さらには低コストで印刷することを実現しました。

リソグラフは、現在世界150以上の国々の官公庁、教育機関、企業、地域社会で広く活用されており、お客様のご要望も多様です。印刷スピードの高速化、2色同時印刷など機能面はもちろん、環境性能の向上やリサイクルシステムの整備など、お客様のさまざまなご期待に応えるために、リソグラフは常に進化を続けています。

自動両面・2色デジタル印刷機 「リソグラフMD6650W」を発売

2010年、「自動両面印刷」と「同時2色印刷」を1台で実現する「リソグラフMD6650W」を発売しました。「MD6650W」は、本体内に2本の印刷ドラムを装備。1本目のドラムで表面を印刷した後、専用架台内で用紙を反転させ、2本目のドラムで裏面を印刷します。一度の操作で両面も2色も手間なく短時間で印刷でき、お客様の印刷作業時間の短縮に貢献します。



日々の営業活動や展示会などの機会を通じて得られるお客様の声が、リソグラフの進化を支えています。

Voice | リソグラフユーザー様から

半日がかかりだった作業がわずか1時間で完了。
作業効率が大幅に改善されました。



社会福祉法人 我孫子市社会福祉協議会
係長 齊藤美智子様 (写真右)
主査 武者小路智恵子様 (写真左)

私ども我孫子市社会福祉協議会では、バザーなどのイベント告知のチラシやポスター、DMなど地域の皆様に配布する広報ツールを自分たちで制作・印刷しており、両面・2色印刷ができるリソグラフMD6650Wを活用しています。また、当会内部の会議資料も自前で印刷しています。リソグラフMD6650W導入前は、片面ずつ印刷していたので、印刷機を2回通さなければならず、一人が印刷機に半日くらいかかりきりになっていたのですが、現在では、1時間ほどでスムーズに印刷が終わり、仕上がりも格段にきれいになりました。今後も、両面・2色印刷のメリットをフルに活用して各種印刷物を作成していきたいと考えています。

印刷作業時間の比較 (イメージ)



「リソグラフMD6650W」開発担当者から



開発本部 K&I 開発センター
部長 石井 重徳
開発本部 開発技術センター
ME設計部
リーダー 高平真一

お客様のご要望が高かったA3自動
両面印刷を実現することができました。

A3自動両面印刷ができるリソグラフの開発は、われわれの長年のテーマでした。従来のリソグラフは、用紙の搬送経路がストレートでしたが、専用架台内に用紙を反転させる経路を作り、「くわえ爪ユニット」を付けることで、1回の操作で自動両面印刷が可能となりました。

自動両面印刷を可能にした くわえ爪ユニット

片面印刷後、紙を反転する際に、1枚1枚を爪ではさんでホールドすると同時に、紙の間にファンで送風して乾燥させる仕組み。これにより自動両面印刷を実現しました。



くわえ爪ユニット

Voice | リソグラフユーザー様から

印刷作業が効率化し、
生徒たちと向き合う時間が増えました。



Davey High School
Deputy Principal
Mr. Sibanyoni (写真左)
RISO Africa
Prince Morgan (写真右)

リソグラフは印刷スピードが速いので、教材印刷に費やす時間が劇的に減少しました。その時間を教育活動に充てられるので、教師も大変助かっています。リソグラフは、教育の質的向上に役立っていると言えるでしょう。

マーケティング担当者から



RISO Africa
Marketing&Environmental
Manager
Sonia Anderson

これからも教育現場を積極的に
支援していきたいと考えています。

教育の普及は南アフリカの将来の発展にとって大変重要です。省エネルギーで高速印刷ができるリソグラフは、先生たちの印刷作業にかかる負担を減らし、教育の現場でも大活躍しています。リソアフリカは、野生動物の保護支援や環境教育支援にも力を入れており、環境団体や地域の学校長とコミュニケーションをとりながら環境保全に協力しています。